

説明文の系統指導表

資料2-1

読みの技能			おさえる用語
A 「文章構成」系列	問い合わせをとらえる	問い合わせ	
	事例の内容をとらえる	事例、事例の順序	
B 「要点・要約」系列	文と段落を区別する	文、段落	
C 「要旨」系列	題名と筆者をとらえる	題名、筆者	
D 「批評」系列	初めて知ったことやおもしろかったことを確認する	初めて知ったこと、おもしろかったこと	
	問い合わせの文を区別する	問い合わせの文の表現、答えの文の表現	
E 「説明文の表現技法」系列	説明の同じところや違うところを考える	説明の観点、同じ説明の仕方と違い	
	物語文と説明文のちがいが分かる	物語文、説明文	
G 「活動用語」系列	語のまとまりに気を付けて音読する	音読	
読みの技能			おさえる用語
A 「文章構成」系列	三部構成をとらえる	はじめ・なか・おわり、話題、まとめ、意味段落	
	小見出しの効果を確認する	小見出し	
B 「要点・要約」系列	主語をとらえる	主語、述語	
	「まとめ」をとらえる	まとめ	
D 「批評」系列	感想を考えながら読む	感想、読者	
	自分の経験と関連づける	自分の経験	
E 「説明文の表現技法」系列	事実と理由の文を区別する	事実の文、理由の文、理由の接続語と文末	
	文章と図・写真を関係づける	図、写真	
G 「活動用語」系列	テーマを決めて読む	テーマ読書	
読みの技能			おさえる用語
A 「文章構成」系列	問い合わせの種類の区別する	大きな問い合わせ、小さな問い合わせ	
	事例とまとめの関係をとらえる	事例とまとめの関係	
	観察・実験と考察の関係をとらえる	観察・実験と考え	
B 「要点・要約」系列	キーワードや中心文をとらえる	キーワード、中心文	
	段落の要点をまとめる	要点、常体、敬体、(体言止め)	
	大事なことを要約する	要約、要約文	
D 「批評」系列	説明の工夫をとらえる	説明の工夫	
	事例の選択の意図を考える	筆者の意図	
E 「説明文の表現技法」系列	事実と意見の文を区別する	事実の文と意見の文やその文末	
	指示語の示すものをとらえる	指示語(こそあど言葉)	
F 「文種」系列	実験・観察文の特徴をつかむ	実験、観察	
読みの技能			おさえる用語
A 「文章構成」系列	序論・本論・結論をとらえる	序論・本論・結論	
	まとめの位置による文章の型をとらえる	尾括、頭括、双括、文章構成図	
	事例どうしの関係をとらえる	並列・対比	
D 「批評」系列	話題と文章構成の意図を考える	話題の意図、文章構成の意図	
E 「説明文の表現技法」系列	時の流れを表す語に注意する	年・月・日・時刻	
G 「活動用語」系列	必要なことを資料から調べる	資料、図鑑、辞典、さくいん	
読みの技能			おさえる用語
A 「文章構成」系列	まとめと事例を関連づける	まとめと事例・事例どうしの関係	
	要旨と題名の関係を考える	要旨と題名の関係	
E 「説明文の表現技法」系列	具体例の役割を考える	具体例	
	資料の効果を考える	資料(表・グラフ・数値・図・写真)	
F 「文種」系列	新聞と伝記の特徴をつかむ	新聞、記事、伝記	
G 「活動用語」系列	自分の思いが伝わるように朗読する	朗読	
読みの技能			おさえる用語
C 「要旨」系列	具体と抽象の関係から要旨を読む	要旨と事例の関係	
D 「批評」系列	筆者の考えに対し自分の考えをもつ	共感、反論	
E 「説明文の表現技法」系列	文末表現の効果を考える	過去形、現在形、言い切り、呼び掛け	
F 「文種」系列	紀行文やドキュメンタリーの特徴をつかむ	紀行文、ドキュメンタリー	

文学の系統指導表

読みの技能			おさえる用語
A 「作品の構造」系列	作品の設定を理解する	時、場所、登場人物、出来事	
	場面をとらえる	場面	
B 「視点」系列	語り手と登場人物を区別する	語り手、地の文	
	登場人物の気持ちや様子を想像しながら読む	登場人物、主人公、気持ち、様子	
C 「人物」系列	登場人物の言動をとらえて読む	言ったこと(会話)、したこと(行動)	
	題名と作者をとらえる	題名、作者	
D 「主題」系列	好きなところを見付ける	好きな場面・行動・言葉	
	会話文と地の文を区別する	会話文、地の文、	
E 「文学の表現技法」系列	リズムを感じ取る	音数、リズム	
	繰り返しの効果を感じ取る	繰り返し(リフレイン)	
F 「文種」系列	昔話や神話を知る	昔話、神話	
	物語文と詩の違いをとらえる	物語文、詩	
G 「活動用語」系列	語のまとまりに気を付けて音読や暗唱をする	音読、暗唱	
	人物になりきって演じる	動作化、劇化	
読みの技能			おさえる用語
A 「作品の構造」系列	あらすじをとらえる	あらすじ	
	登場人物の気持ちの変化をとらえる	気持ちの変化	
D 「主題」系列	感想を考えながら読む	感想、読者	
	自分の経験と関連づける	自分の経験	
E 「文学の表現技法」系列	比喩表現の効果を知る	たとえ(比喩)	
	短文や体言止めの効果を知る	短文、体言止め	
F 「文種」系列	外国の民話から日本との違いを知る	外国民話	
	場面や人物の様子を想像しながら絵に描いたり音読したりする	感想画、紙芝居	
読みの技能			おさえる用語
A 「作品の構造」系列	中心となる場面をとらえる	中心場面(クライマックス)	
	立場による見え方・感じ方の違いをつかむ	立場の違い	
C 「人物」系列	人物像をとらえる	人物の人柄(人物像)	
	自分の行動や考えを重ねて読む	自分だったら	
E 「文学の表現技法」系列	会話文と心内語を区別する	心内語	
	擬態語と擬声語の効果を知る	擬態語、擬声語	
F 「文種」系列	擬人法の効果を知る	擬人法	
	ファンタジーを知る	ファンタジー(超現実)、現実	
G 「活動用語」系列	俳句を知る	俳句(季語・五七五の十七音・切れ字)	
	人物や場面の様子を想像しながら語りをする	語り	
読みの技能			おさえる用語
A 「作品の構造」系列	時代背景と関連づける	時代背景	
	場面を対比する	場面の対比	
B 「視点」系列	視点と視点の転換をとらえる	視点、視点の転換	
	読後の感想の理由を考える	読後の感想	
D 「主題」系列	情景描写の効果を知る	情景	
	倒置法の効果を知る	倒置法	
E 「文学の表現技法」系列	記号の効果を知る	一(ダッシュ)、…(リーダ)	
	脚本を読む	脚本、台詞、ト書き	
F 「文種」系列	脚本を読む	脚本、台詞、ト書き	
	短歌を知る	短歌、三十一音、上・下の句、百人一首	
G 「活動用語」系列	学習内容に関連した読書をする	関連読書(内容)	
読みの技能			おさえる用語
A 「作品の構造」系列	額縁構造をとらえる	がくぶち構造	
	伏線の役割を知る	伏線	
C 「人物」系列	登場人物の関係の変化に着目する	人物の関係	
	主人公の変化から主題を考える	主題(テーマ)	
D 「主題」系列	作品の山場や結末から主題を考える	山場、結末	
	方言と共通語の存在を意識する	方言、共通語	
E 「文学の表現技法」系列	古文を読む	古文、古典、古語	
	伝記と隨筆の特徴を知る	伝記、隨筆	
G 「活動用語」系列	学習した作品の作者の他の作品を読む	関連読書(作者)	
	自分の思いや考えが伝わるように朗読する	朗読	
読みの技能			おさえる用語
B 「視点」系列	一人称か三人称か視点を考える	一人称、三人称(限定・全知)	
	登場人物の役割や意味を考える	登場人物の役割	
D 「主題」系列	題名から主題を考える	題名の意味、象徴	
	対比的表現の意味を考える	対比	
F 「文種」系列	漢文を音読する	漢文	
	古典芸能のおよそを鑑賞する	狂言、歌舞伎、落語	

課題設定や取材に関する指導事項			構成に関する指導事項			記述に関する指導事項			推敲に関する指導事項			交流に関する指導事項			
	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高
指導事項	経験したことや想像したことなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	考えたことなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	自分の考えが明確になるように、事柄の順序に理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	文章全体における段落の役割を理解し、文章全体の構成の効果を考えること。	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成を考へること。	語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。	・書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ・文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	・事実と感想、意見などを区別するとともに目的や意図に応じ簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。	文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどを気付き、正すこと。	文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。	表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。	書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	書いたものを読み合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。
身に付けさせたい技能	見たり、触ったりして、丁寧に観察し、詳しく書く。	調べる内容に合わせて、取材の仕方を選んだり、大事なことを落とさず、正確に取材メモを取ったりする。	伝えたいことを、根拠を確かめたり、他と比べたりして選ぶ。	初め-中-終わりの組み立てで書く。	初め-考えの中心を書く。中-理由と関係する事例を、内容のまとまりごとに、段落を分けて書く。終わり-もう一度、自分の考えの中心を書く。	「初め」と「終わり」に自分の意見を重ねて書く。	初め-中-終わりのまとまりに気をつけて書く。	集めたことを整理し、調べて分かったことが読む人にはっきり伝わるように書く。	実際にあったことや、それらの記録と自分の考えを区別して書く。出来事などの事実と思いや考えなどを、どのように書き表すか工夫する。	声に出して読んでみると間違いや読みにくいうきを発見する。	誰に伝えるのか、何を伝えるのか、どんな言葉づかいをするかはっきり分かるよう工夫する。	自分の考えが明確に書かれているかや、わかりやすい表現になっているかなど、確かめる。	声に出して読んでみると間違いや読みにくいうきを発見する。	読み手に内容が分かりやすいように例を上げて書く。	書いたものを発表し合い、目的や意図に応じた文章構成や表現であるかどうかを助言しあう。
	複数の本に当たり、問い合わせになる事柄を集める。	目的にあった資料を選ぶ。	初め-中-終わりのまとまりに気をつけて書く。	調べたことを報告する場合は、「調べた結果や理由/調べ方/調べて分かったこと/感想」と組み立てて書く。	伝えたい思いやその時の様子を思い出して、言葉を選んだり、並べ方を変えたりするなど工夫する。	手紙は、誰に伝えるのか、何を伝えるのか、どんな言葉づかいをするかはっきりさせて書く。	目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする。	様子を表す言葉を工夫する。	たとえを使ったり、様子を表す言葉を工夫したりする。	伝えたい思いやその時の様子を思い出して、言葉を選んだり、並べ方を変えたりするなど工夫する。	手紙は、誰に伝えるのか、何を伝えるのか、どんな言葉づかいをするかはっきりさせて書く。	読み手に物語の設定が分かるように書く。			
	どの本で調べたか分かるように、筆者名、書名、出版社名、発行年を記録する。	目的に合わせて、相手の知りたい情報は何かを考える。		伝えたいことに合わせて、わりつけを考える。	問い合わせを入れたり、文末の書き方を使い分ける。事実と感想、意見を区別して書く。		読み手に内容が分かりやすいように例を上げて書く。	現状や問題点を整理し、提案の理由を明確にして書く。異なる考え方や反論を取り上げ、それにに対する自分の考えも入れる。		経験したことなどだが、自分にとてどのような意味をもったのかを書く。	集めたことを整理し、調べて分かったことが読む人にはっきり伝わるように書く。	読み手が情景を想像できるよう、登場人物の行動や会話、場面の様子について詳しく書く。			
				集めたことを整理し、調べて分かったことが読む人にはっきり伝わるように書く。	自分たちの活動や考えが分かりやすく伝わるように、小見出しを立てたり、段落を分けたりする。		写真や図表などを組み合わせたり、見出しを工夫したりして、分かりやすい記事を書く。	グラフや表などの資料を用いて書くときは、目的に合った資料を選び、資料と文章を対応させて書く。		どうすると感動が伝わるかを考え言葉を選ぶ。					
					読み手に物語の設定が分かるように書く。情景を想像できるよう、登場人物の行動や会話、場面の様子を詳しく書く。		目次や索引を活用して本を使って調べ、分かりやすく書く。	たとえを使ったり、様子を表す言葉を工夫したりする。事物の良さを的確に表す言葉や、具体的な数値を用いて書く。		言葉の順序を工夫する、たとえを使う、漢字、平仮名、片仮名のどれを使って書き表すか表記の仕方を考える。					
							内容に合う写真を添えたり、具体例をあげたりすると読み手に分かりやすい文章にする。	見出しやキャッチコピー、図や写真などを組み合わせて、読み手を引きつける。		出来事などの事実と思いや考えなどを、どのように書き表すか工夫する。					

国語系統指導表

	話題設定や取材に関する指導事項			話すことの構成や内容及び言葉遣いに関する指導事項			音声に関する指導事項			聞くことに関する指導事項			話し合うことに関する指導事項		
	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高
指導事項	身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	関心のあることなどから話題を決め、収集した知識や情報を探して話すこと。	考えたことや伝えたいことを順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。	相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。	姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。	大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。	話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考え方をまとめる。	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	互いの考え方の共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果しながら、進行に沿って話し合うこと。	互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
身に付けさせたい技能	大事なことは何かを考えて話したり聞いたりする。	話の中心を考えて最も伝えたいことを聞き手が分かるように話す。	自分の体験や調べた事実など、具体的な理由を入れて説明する。	「はじめ」「中」「終わり」のまとまりで、順序に気をつけて話す。	「はじめ」「中」「終わり」の組み立てで話す。	意見とその理由をはっきりと伝える。	みんなに聞こえる声ではっきりと話す。	絵や写真などを見せながら、聞く人に分かりやすく話す。	声の大きさや速さ、強弱、間の取り方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。	話を聞いたり、質問をしたり、感想を言ったりする。	話の中心に気をつけて聞く。	一番聞きたいことをはっきりさせて、話の流れにそって質問する。	話し合いをする人を決める。	司会をする人を決め、司会の進行にそつて話し合う。	話し合いの目的を確かめ、自分の立場を明確にして話す。
	目的や条件など、聞き手が求めていることを考えて話を構成する。	丁寧な言葉遣いで話す。初め-中-終わりのまとまりに気をつけて書く。	調べたこと、調べた方法、調べて分かったことが聞く人に伝わるように話す。	目的や条件など、聞き手が求めていることを考えて話を構成する。	目的や条件などを明確にし、事実と自分の考えを区別して話す。	話したいことを明確にし、事実と自分の考えを区別して話す。	大事なことをおとさないように、メモをとる。	聞いたことを、短い言葉で書きとめる。	相手の意図をとらえて、話の要点をまとめたり、内容を確認したりする。	友達の話を、最後まで聞いてから話す。	参加する人は、自分の考えとその理由を言う。	目的を意識しながら、話題にそって話し合う。	司会者・提案者・参加者の役割を理解し、議題にそって話し合いが進むよう、互いに協力する。	友達の意見と同じところ、違うところをはっきりさせて、意見を言う。	司会者・提案者・参加者の役割を理解し、議題にそって話し合いが進むよう、互いに協力する。
						自分の体験や調べた事実など、具体的な理由を入れて説明する。	場や聞き手に合った言葉づかいで話す。	自分だったらと考えたり、自分の知っていることとつなげたりしながら聞く。	メモを取るときは、短い言葉で書く、記号を使うなど工夫する。	自分の考え方と比べながら聞く。	記録を活用して内容を整理し、話し合うことを明らかにする。	決められた時間内に発言するなど、各自が進行に協力する。	決められた時間内に発言するなど、各自が進行に協力する。	決められた時間内に発言するなど、各自が進行に協力する。	決められた時間内に発言するなど、各自が進行に協力する。